

湖上こじょうに飲いんす

蘇そ

軾しやく

水光すいこう潑れんえん灑えんとして晴はれ偏ひとに好よく

山色さんしき空濛くうもうとして雨あめも亦また奇きなり

若もし西せい湖こを把とつて西せい子し比ひせば

淡粧たんしやう濃のう抹まつ総すべて相あい宜よろし

【作者】蘇軾(一〇三六〜一一〇一年)中国、北宋の文学者、書家、政治家。眉州眉山(四川省)の人。字、子瞻(しせん)。号、東坡(とうば)。

一〇五七年進士に及第。歐陽修に認められ、英宗の信任を得た。しかしまもなく王安石の「新法」に反対したため地方官に転出。その後も政争の渦に巻込まれ、また直言をはばからぬ性格もあって、しばしば左遷され、生涯の多くを地方長官で過して終った。父の蘇洵、弟の蘇轍とともに「三蘇」と称される。儒道仏に通じ、詩文書画のあらゆる分野で天才的な業績を残し、宋代を代表する文豪である。黄庭堅、秦觀、陳師道、張耒らはその弟子(蘇門四学士)。作品『赤壁賦』はよく知られる。書では真跡を伝える『黄州寒食詩卷』が残る。詩文集『東坡七集』。

【語釈】*水光…水面の輝き。・潑灑…さざ波のしきりに動くさま。*空濛…霧雨が降って薄暗いさま。

*西子…西施。春秋時代の越の國の美女。呉王夫差の愛妃。

【通釈】水面にはさざ波のしきりに起つて、晴れてちよどよい、山の色が雨にけふる風情もなかなかのものである。

西湖を西施と比べて謂おうとすれば、薄化粧も濃い化粧も晴れても雨であっても、どちらもなかなかふさわしい。

【備考】(杭州の西)湖上で、酒盛りをしたら、初めのうちは晴れていたが、やがて雨が降ってきた。西湖の風光の麗しさと西施の美を比べて詠ったもの。